



こうべ森の学校だより

No.72

2016年9・10月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

森の手入れの状況について

平成 26 年度から森の手入れの活動場所を各班ごとに固定して、手入れの進捗状況を実感してもらおうという試みを始めました。今年で 3 年目に突入しますが、ここで各班の現状と課題について中間報告をさせていただきます。今回は 3 班と 4 班を掲載します。

3 班 (4 区)

稲垣 祥二

入山地点より 20m 程入った場所周辺の照葉樹の間伐はかなり進み、林床明るく、草本類の出現が楽しみ。随時、記録をとりたいと思う。

現在の手入れは右・北方向斜面上部へと、西方向谷部へと二方向に別れて整備を進めている。

明るくなっている所では、アケビ、アオツツラフジの蔓が走り出しているの、それらの途中切り、伐倒木の萌芽目の剪定も同時進行とする。

4 班 (8 区)

東郷 賢治

4 班は梅林の手前から沢を渡って斜面を急登した比較的狭い斜面が活動地となっている。以前枯れマツの太木が数本あったので、事務所に依頼して、伐倒してもらったが、テープを巻いたままの枯れマツも残っており、沢

からモミジの広場へのアプローチの道や階段造りなども含め、環境の整備が必要。ということで 6～7 月に 2 回 スタッフで作業道や階段の改修を行い、マツ枯れの枝の集積等環境を整えたので、幾らかは作業し易くなった。急な傾斜地や太い枯れマツの伐倒木の処理等危険を伴う作業は当然避けなければならない。

参加者のこれまでの傾向では 森学に参加してからも森の手入れについては経験の浅い会員が多く、午後は木工・自然観察・苗圃などへ参加しておられる。従って除・間伐についても細い雑木等を手掛ける人をよく見かける。

限られた時間内での作業量は少なく、ビフォア・アフターを比較しても顕著なものが認められ難い。枯れマツ伐倒後の森の姿をイメージした手入れをすすめる。例会前に伐倒木にテープで印をつけておき、整備後の姿と比較し、林床までも陽が射しこみ、明るくなったことなど確認しながら今日の作業を振り返って終わりたい。会員の方々には伐倒後の丁寧な処理や集積をはじめ、高枝鋸を使っての枝払いや下草刈り・蔓の除去など基本的なテーマを順次経験をしてもらうよう指導することも大切かと思われる。



平成 28 年 9 月 10 日例会の集合写真

あの時水さえあれば

藤原 恒夫



インドネシアの森林火災



火災1年後の画像

4月に始まったNHKの朝ドラ『とと姉ちゃん』終わっちゃいました。半年なんか直ぐ過ぎてしまいます。朝、常子のくりくり目が見られないのはチョット寂しい。三女、美子のセリフのない時の演技も良かったです。

10月からは神戸が舞台の『べっぴんさん』がスタートしました。地元の町が出てきますね・・・楽しみです。昔から神戸市民が親しんできた我が再度公園のロケはないかな？

前々号ではボルネオ島の話をしました。その続きです。昨年8月インドネシアから帰国直後に訪問先の森が火災になりました。以前からボルネオ島スマトラ島では焼畑の火入れ拡がって火災になることがあります。

しかし、昨年は規模も数も桁違いでした。エルニーニョ現象が強く乾季が長引き、なかなか雨季がやって来ませんでした。普段は雨が降って火は消えます。

9月になっても、10月になっても雨が降りません。土壌は乾ききって、小川の底も泥水に。そんな中、火勢は増すばかり。現地NGOのメンバーが必死で消火に当たりました。といっても消防道具は初期消火に使うちっぽけなものです。あとは鍬や木の棒、葉っぱで火種を叩く。村人も、国立公園の職員も、町から学生のボランティアも。ほぼ人力です。ただでさえ少ない水もなくなり。体力も尽き。万事休す。二ヶ月間燃え続きました。

こんな光景がインドネシア全土で起こりました。日本では小さく報道されましたが、この煙は隣国のマレーシア、シンガポールまで届き、国際問題にまで発展しました。飛行機の発着が出来ない。この地は泥炭湿地が多く、火災が長引くと、泥炭に火が付き、表面は燃え尽きても、地下では燃え続けています。風向きによっては助かる森もあります。しかし、離れた所で大きな木が倒れます。根に火が移ったのです。そこから新しい火災が拡がります。今回の大規模火災はインドネシア全土で約12万ヶ所、16億トンを超える二酸化炭素を排出しました。(例年の日本の総排出量は約14億

トン)、多額の経済損失、多くの人々の健康被害をもたらしました。

何故こんな酷いことになったのでしょうか？色々要因は重なっていると思います。エルニーニョで二ヶ月も雨季が遅れた。消火設備がなかった。そもそも何故火災が起こったのか？最初に焼畑農業について触れました。でも今回は違うようです。状況判断から、プランテーション農園開発業者が火をつけたと考えられています。熱帯雨林の開発には多額の経費が掛かります。火災が起これば後は楽です。自分たちの農園に火が付いた時だけ消火にあたっていました。あとは放置です。私たち日本から支援してきた植林地の多くの苗木も燃えてしまいました。

今年は火災の跡をこの目で確かめるべく、8月に現地を訪れました。今年も村人たちが元気に出迎えてくれました。火災が村の近くまで来たときは怖かったろうに、煙で気管支炎になった子供も多くいたと聞きました。他の村では消火に当たったお爺さんが亡くなったとのこと。

今回厄介になるホームステイ先に荷物を置いて、早速、火災跡現場に行きました。昨年は同じ場所が熱帯林でした。いま、見渡す限り雑草の類が一面に。遠くに小さな林が。所々に立ち枯れた木がポツンと。泥炭層からの延焼で根が燃えて倒れた大木が。火災の後、重機が入ってならした跡が。

この光景を見て、私は21年前の阪神淡路大震災の長田の火災跡を思い出しました。目の前で家々が燃えていく。消火水は尽きた。ただ、自然鎮火を待つのみ。水さえあれば、水さえあれば、あそこまでの延焼はふせげたのに。家は守れたのに。

この村に大きな川から水を引ける消防設備があれば、消防体制があれば、もっとオランウータンの棲める森を守れたのに。苗木も守れたのに。お爺さんも亡くならずすんだのに。ああ悔しい。

今年は日本から消防道具を送ろうとしています。消防署に協力してもらい中古の消防ホースや可搬式ポンプ(約2トン)を譲って頂きました。しかし、受け取り側に輸入ライセンスがいるとか、中古品は輸入出来ないとか、高額関税が掛かるとか、かの国の法律に阻まれて、未だ送れていません。交渉中です。ただ、今年はラニーニャ現象で乾季らしい乾季でなく、9月半ばまで雨が降っていました。今のところ、火災はほとんど起こっていませんので助かっています。

こうべ森の学校の活動が農林水産大臣賞を受賞

木下 英吉

(公社)国土緑化推進機構が実施している全国育樹活動コンクール(先に兵庫県を通じて推薦調書を提出、8月末に選考結果の通知あり)で、こうべ森の学校の活動が農林水産大臣賞を受賞しました。第40回全国育樹祭(2016年は京都府が事務局で、大会テーマは“育樹の輪 ひろげる森と木の文化”、10月9日京都府南丹市“府民の森 ひよし”において開催)の式典で表彰していただきました。

前日、亀岡市での育樹祭懇談会は、皇太子殿下・国・主催者・受賞者等250名程が出席し、1時間程の和やかな雰囲気の中で行われました。直前に主催者から、「皇太子殿下からの最初の“お声掛け”を受けてください」と伝えられ、緊張の中にも二言三言を交していただきました。

育樹祭当日は、気がかりだった雨も朝方には止み、薄日も差していました。式典には、伊藤ハム(株)長田氏・森林整備事務所 道木所長と共に出席して、皇太子殿下や大会会長(参議院議長)・農林水産大臣を始め、主催者の国土緑化推進機構会長・京都府知事や京都府内の市町首長等関連の方々

臨席のもと、全国からの林業関係者約4,000人が出席し、主催者の趣向を凝らした式典が執り行われました。

この度の受賞は、こうべ森の学校を立ち上げた先輩方から13年の間、森への市民の思いと力・伊藤ハム(株)からの支援と協力・神戸市からの場の提供と後方支援といった3者の協働による画期的なシステムの構築が実を結び、毎週火・木・土曜日及び月例会での継続した活動が評価されたものと受け取っています。

私達は森に関わり続けていることで、移り変わる森の様子や自然が体感でき、徐・間伐材の再利用といった森の恵みも享受し、同じ活動に携わる仲間との繋がりも生まれています。再度公園の森が、市民に愛され続ける豊かな緑を維持していくためにも、これからの100年先を目指し、これまで通り3者協働で安全第一の活動を続けていきたいと思います。



育樹祭会場

第27回藤木祭開催される

10月2日(日)第27回藤木祭が開催されました。

藤木九三さんはクライミング技術の基礎を築いた方で、多く



道木所長の講話

の登山家を育てられた、わが国を代表する登山家であり、指導者です。

年に一度、関西の岳人が集まり、登山の安全と発展を祈るために、この催しを行っております。

今年は、神戸市森林整備事務所道木所長にお越しいただき、六甲山の植生の移り変わりや、森林整備事務所の作業内容、自然環境などについて講話をいただきました。

続いて、藤木摩耶子さんによる短歌朗詠、藤木高嶺さんのご挨拶、芦屋ユースコーラスのみなさんとともに全員で、心を一つにして山の歌を合唱して、お開きとなりました。次回は平成29年10月1日の開催です。

シリーズ 私のヒヤリハット⑨

2016年7月21日(木) 11時頃

例会2区作業地 晴れ

緩やかな傾斜地で笹刈りと雑木切りをしていた時に、右手の人指し指と左手の中指にチクリと衝撃があり、“小さい蜂らしき”に刺されました。その場で薬を塗りましたが、その前に毒抜き処理をしてから薬を塗ればよかったかなと、後になって思いました。

また、いつ頃かわからなかったが捻挫をしていて、その夜になって足首が腫れてきて病院に行きました。

※ 活動地では、常に足元・手元・周りに注意を払いながら行動しましょう。怪我をしたときは、周りのス

タッフや会員に声掛けして、協力を仰ぎましょう。自身では処置し難い場合が多く、より適切な処置ができます。



2区作業地

また、蜂を見つけたら周りに注意喚起するよう、声掛けをしましょう。特にスズメバチは、9月10月に攻撃的になるため、蜂や巣を見かけたら近づかないようにしましょう。

■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり	外人墓地見学
8月21日(日)	38名	小野律子さん	13名	9名	—	3名	10名
9月10日(土)	63名	佐藤憲一さん	19名	17名	9名	8名	—

■東お多福山草原再生プロジェクト



ネザサの刈り取り作業

東お多福山草原保全・再生研究会、平成28年度第4回目の活動は台風の

影響で10月6日(木)に延期して実施しました。

こうべ森の学校から4名参加しました。今回の作業は東お多福山登山道分岐手前の芦屋市側のネザサの刈り取りとコドロードの植生調査でした。

土樋割まで車の乗り入れができないので、登山口から

重たい機材を人力で担ぎ上げました。刈り払い機を3台使用しましたが、高さが3mもあるネザサは竹のような硬さと重さ



手つかずのネザサは手ごわいですが、刈るのも運ぶのも、かなりの労力が必要です。

しかし、ネザサの成長も抑えられ、ススキが順調に成長しているのを見ると、疲れも吹き飛びました。

次回は11月23日(水・祝)に晩秋の全面刈りを行います。参加を希望される方は横田さんまたは小野さんにお申込みください。

お知らせ・掲示板

♠バスの運行

こうべ森の学校月例会には神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)をご利用ください。三宮の乗り場はミント神戸1階三宮バスターミナルM4停留所、9時20分発のバスに乗れば、例会に間に合います。

運行日は4月～11月の土日祝日のみで、平日の運行はありませんので、ご注意ください。

また阪急バス61系統(神戸駅南口～鈴蘭台)は通年運行しております。神戸駅南口バス停9時発のバスに乗り、水源池バス停で下車して徒歩25分で、こうべ森の学校「風楽山荘」に到着します。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

♠こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次の開催予定日は10月30日(日)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠摩耶の森クラブ

次の開催予定日は11月19日(土)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

・月例会 11月12日(土)・12月18日(日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択していただきます。

・上記以外の火・木・土曜日でも活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記 今年の月例会は、雨模様の天候が多く、設立初の“警報発令による活動中止”月もありましたね。“雨男・雨女”の勢い!? いやいや、これも自然の摂理と受入れですね。また、このような天候からなのか、いろいろなキノコが独自色で顔を出し、驚くように大きなものもあり、目移りしています。私の大好きなマツオウジも例外ではなく、春・秋のシーズンに綺麗な姿を見せてく

れました。でも、もうそろそろ爽やかな秋の環境の中で、森学の活動に楽しく勤しみたいですね!!



木下 英吉

マツオウジ